

核融合エネルギーフォーラム 第4回全体会合
2010年3月25日
新生ホール

平成21年度
「吉川允二核融合エネルギー奨励賞」
の選考について

核融合エネルギーフォーラム
調整委員会 選考委員会 委員長
中村 幸男

平成21年度「核融合エネルギー奨励賞」

目的

ITERやBAなどに代表される未来の核融合エネルギーの実現に寄与しえる内外の研究開発活動の中で、若手人材による優れた成果を顕彰し、今後の発展のために研究助成(*)

対象

- ① ITERやBAに直接関わる研究開発活動など
- ② 上記以外で核融合エネルギーの実現に必要な研究開発活動、または将来これらの研究開発に寄与すると見込まれる内外の基礎的・基盤的な研究開発活動など
- ③ 長期的な視野に立って核融合エネルギーの実用化に向けたシナリオ作成に寄与する調査研究活動など

選考委員会

中村幸男(委員長、核融合科学研究所)
岡野邦彦(電力中央研究所)、實川資朗(原子力機構)、高瀬雄一(東京大学)
中島徳嘉(核融合科学研究所)、長谷川晃(東北大学)、堀池寛(大阪大学)

採択(調整委員会)

応募9件の中から、奨励賞3件を採択

(*)核融合エネルギーフォーラムの推薦にもとづいて原子力機構から配賦

平成21年度 「吉川允二 核融合エネルギー奨励賞」 受賞者

奨励賞（研究助成 80万円）

あきやま つよし

秋山 毅志 氏（核融合科学研究所）

「光弾性変調器を用いた2波長発振型短波長遠赤外レーザー偏光計の高精度化に関する開発研究」

電子密度・電流分布計測のためのレーザー偏光／干渉計の開発をITER等の大型装置を想定して計画的及び継続的に進めてきており、ITERに要求される計測分解能の達成は高く評価できる。今後、長時間計測のための安定性の向上など更なる計測の高度化が期待できる。

ながさか たくや

長坂 琢也 氏（核融合科学研究所）

「低放射化バナジウム合金の溶接・接合のメカニズム解析と組織制御による特性向上」

核融合炉の低放射化材料として、バナジウム合金の素材開発に継続的に取り組んでおり、大型化のための大量溶解や溶接接合技術などの開発は高く評価できる。ブランケットを含めた発電システムの構築のための異材接合技術への挑戦などは将来の発展が期待できる。

まつなが ごう

松永 剛 氏（原子力研究開発機構）

「高 β プラズマにおけるMHD不安定性の物理および高エネルギー粒子との相互作用に関する研究」

トカマク型核融合炉で重要となる高ベータプラズマの安定化に関する研究に意欲的に取り組んでおり、抵抗性壁モードの安定化制御や高エネルギー粒子駆動不安定性の発見などは高く評価できる。海外での共同研究を目指しており、この分野での更なる貢献が期待できる。